

3. 11から考える森の贈り物教育懇話会

森の贈り物研究会

森の贈り物研究会は、板橋区教育委員会・学校長さんたちと共同で3年間にわたり教育懇話会を開催してきました。様々な立場・考えの教育研究者、実践者、ジャーナリストから学ぶとともに、板橋の教育改革プランに沿った実践を議論しあう場となりました。今年、板橋の懇話会は各校が最も大切な「授業改善」に向かう実践を始めたことをもって終了としました。しかし、3.11の大地震と大津波、福島原子力発電所の大事故は、日々の生活のあり方、将来の日本のあり方、子どもたちの行く末を根底から考え直さなければならないことを突きつけてきました。「仕方ないか」「まあ、いいか」とどこかであいまいな納め方をしてきたという反省があります。私たちの仕事は3.11を原点にして「どういう子どもを育てるのか」「そのためにどういう教育をするのか」という問いを発し続けることだと考えました。答えではなく、問いと仮説をしぼとく置き続けましょう。

第一期「森贈教育懇話会」は、話題提供者を囲んで教育、建築設計、地域活動など森の贈り物研究会にかかわる人々がラディカルに教育を考える場にします。下記の要領です。

1、懇話会・懇親会

- ・懇話会：森の贈り物研究会「フォーラム美夢」中央区東日本橋3-8-1東日本橋コーポラス1F
TEL:03-3249-0421（都営新宿線「馬喰横山」 A3出口）
15:00～18:00
会費：一回2000円（会場で）（定員30名）
- ・懇親会：講師を囲んで。居酒屋「呂久呂」日本橋 会費3000円
18:00～21:00

第4回教育懇話会

1. 日 時 平成23年12月18日（日）

講演 15:00～16:30 わいわい議論 16:45～18:00

2. 演 題 「水俣の地からウズベキスタンへ ～紙づくりの指南～」

3. 講 師 金刺 潤平さん（株）水俣浮浪雲工房主 熊本県伝統工芸士

- ・金刺さんは石牟礼道子氏のもとを訪ね、水俣に住み着きました。この地に伝わる和紙作りを習得したのち、JICAの活動でブラジル・アマゾン河流域、砂漠の地ウズベキスタンで現地に生える植物繊維を使った紙づくりを指南しています。指南の意図は、その紙で当地の人々が持続的に生業とできることです。ウズベキスタンでは、シルクロードのオアシスで古代作られたサマルカンドペーパーを復元しました。

金刺さんは昨年まで、中学校の息子さんの学校のPTA会長を務めていました。このPTAの活動で、子どもたちに潜水を教えるなどなど・・・乞うご期待。

申し込み（12月15日まで） そのままFAX 03-3249-5133

氏 名	所 属	懇 親 会
		○印 参加 不参加

連絡 花岡 090-4063-8468